

# めだかの学校だより

平成12年2月1日

第27号

学舎：いなさ自然休養村  
くつみくさ  
事務局：引佐郡引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL 053-545-0381

## 校長訓話

第二十七回校長 前島克己

### 車社会の欠陥への取り組み

危惧された二〇〇〇年問題も事なく過ぎ、記念すべき初春にメダカと皆様方のご繁栄を祈り上げます。今回、校長を仰せつかり恥を晒すこととなりましたが、その責めを果たすべく努めます。

神戸大震災の五周年を迎えることで再び、六四三二人の犠牲者を出した惨事の放映が盛んに行われ、備えあれば、例え大震災でも被害を最小限に抑えられ助かる事を教え、日頃の備えの大切さを訴えている。一方、この被害にも増し、昨年は一二〇〇〇人余、震災の約二倍の犠牲者と一二〇万人の怪我人を見る災がありました。これが毎年、毎年繰り返され、運が悪かった、寿命だと片付けられている、基本的な「人の欠陥」に気付いておられない？備えられていないと思われてならない。人の欠陥の例で甚だしいのが、昨年横浜市立大付属病院で、患者を取り違え、胃の患者の心臓を、心臓患者の胃を手術し胃患者は昨年暮れ亡くなった、関西医大では一八歳女性救急患者に血液型を間違えて輸血し亡くなる

等々の間違いを犯している。日本の医学は素晴らしいが、人の命を預かる所に於いておやである。人は、三〇〇億円以上の価値能力を備えている（NHK小宇宙頭脳）と言われる、素晴らしいかな人間ですが、悲しいかな「過ちは人の常、過ちは付き纏っている」と言われるが、過ちとは日常生活のこと、運転等では、欠陥として意識されなければならない事である。



かつて、現場で六年、路上の露と消えた命三七一柱、人身事故五〇〇〇〇余件に巡り逢い「考え事をしていて赤信号に気付かないで、一時停止を見落として、子供に気を取られて等」の惨劇に立ち会い、欠陥への意識がないことをつくづく思い知らされた。今もまた、最近の初心運転者死亡事故例通報に見られる、一八歳の少女運転中にCDを操作し、大学生、免

許を取った翌日後座席のバックを取ろうとし対向車と正面衝突、携帯電話、缶コーヒーを開けようとし、頬紅、唇紅塗等と形態が更に増えている、大量、過密の車社会で災いに備える事は「欠陥を自覚し、欠陥を意識し」走りながら、その要因を作らないで欠陥を克服する事にある。その二として道路の欠陥への意識である。日本は国土の八一%が山で道路は七m以下が七〇%占める、狭い、上り、下りが多い、カーブも多い、そのカーブにカント、横断勾配、競輪場がない、逆に、「逆カント」の所が多い、例えば左カーブ、左側が下がっていれればいいが、逆に上がっている、時速五〇kmで差し掛かると重力（G）により反対車線に吸い込まれ、対向車と正面衝突、無防備で、居眠運転と同じである。致死率が交差点での車同士衝突の二倍、さらに悪いのが、逆カントカーブで、ガードレールを突き破り、川に、海に転落、電柱に、欄干に激突等々の単独事故、三、五人乗せてのドライブ、「重さ」が加わり横Gが速度の二乗に比例する（三が九に）事を忘れ、逆カントカーブに差し掛かるほど惨めな事はない。例として、昨年一二月、島根で五人の女子高校生右カーブで、栃木で五人、中等々重大事故の多くがカーブでの単独事故である。まさに欠陥、落とし穴、魔のカーブと言われる所である。カーブの欠陥（逆カント）潜在危険への意識を備える対応する事も大切である。今後あるこの種報道を他山の石として御覧下さい。

## めだかの学校伝言板

..... 第27回めだかの学校を開校するので出席しなさい。 開校日/平成12年3月3日(金)6:20PMより .....

校長/前島 克己・教頭/大谷 香代子  
給食係/湯浅明美・佐藤律子・溝口 久  
夏目美之・大谷一代・山崎敏明  
松本泰栄・加茂光廣・照井泰子  
渡辺三ツ子(チーフ)

用務員/階堂 隆夫  
受付/原 邦司・市川美鈴・服部守孝(後見人)

時間割

1時限目=美術・夏目美之先生  
「おへそから見上げた親の顔 青くなったり赤くなったり」  
2時限目=数学・斉藤 昭先生  
「親の知らない高校生から若者の生態学」  
3時限目=保健体育・鈴木 旭先生  
「ピンピンイキイキ コロリとなるためには」

※そば打ちもします。上記以外の方でお手伝いできる方、欠落・間違いの方も2月20日までに事務局までご連絡下さい。

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286  
いなさ自然休養村「くつみくさ」  
TEL 053-543-0321 (開校日のみ)

—— テーマは教育・幼児期・青少年期・壮老期 ——

# めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

## ■人海戦術で

なんでもあり農園は、冬ごもりに入っています。昨年12月のサトウキビ刈り大会には、大勢のメダカ達に来ていただきました。大変ありがたうございました。人海戦術とはよくぞいったもので、刈り取り、皮むき、結束などを分担したり交代したりして頂き、思いのほか作業は順調に進みました。農作業をあまりやったことがない方々がほとんどでしたが、サトウキビの収穫は予定よりもかなり早く終わることができました。

同じく昨年、菊川町上倉沢で、「しずおか棚田くらぶ」の活動として、草刈りなどを手伝いました。このときもほとんどが素人でしたが、作業は予想外にたくさん進み、棚田の復元を半ばあきらめかけていた地元グループの方々に元氣を出して頂き、人海戦術の威力を再認識しました。一人の力では手に着かないことも、みんなで力を合わせれば結構いろいろなことが出来ます。しかし同じ大勢でも、あの成人式は「体なんぞしようか、大勢になると、何もできないおかしな方向に進みだしてしまうこともたくさんあります。人間はほんとうに魔可不思議な生き物です。2000年の「なんでもあり農園」は、これまでの「さつまいも掘り大会」と「サトウキビ刈り」大会に加えて、6月頃に「ジャガイモ掘り大会」を加えたいと考えています。

自分たちで掘ったジャガイモで「ジャガバター」「カレーライス」などを作って、みんなで食べましょう。3月初旬に、男爵やメークインなどの種芋を植え付けますので、自分のジャガイモを栽培してみたい方など、農園に遊

びに来て下さい、畝をお貸しします。「なんでもあり農園」は、大須賀町の「サンサンファーム」の南隣、日本最大なイチゴ農園「赤ずきんちゃん」のイチゴ「摘み村」のすぐ近くです。  
(「なんでもあり農園」小作人の松)

## ■エイ、ヤアーが道を開く

気乗りのしんかった「静岡未来づくりネットワーク」交流会議 in 浜名湖への参加だったがエイ、ヤアーと飛び込んだ。結果的には久々の大収穫だった。世の中案外こんなものだろうか。期待してはズレたり、その逆だった。ストーリーは次のようだった。一日目の分散研修会で、引佐町、細江町、三ヶ日町、湖西市の中から私は三ヶ日町のコースを選んだ。祥月洞探索、しかも参加者は雨合羽、軍手、長靴、懐中電灯を持参とあり、これは面白いかもしれないと思ったからだ。昼食は三ヶ日牛、三ヶ日みかんのワインでパーベキューというのも好奇心をそそられた。参加して大当り。人数が少なく食べ放題飲み放題。参加者皆満足だった。食後一服し、マイクログラスで山麓の祥月洞鍾乳洞に向かった。今でも毎日少しずつ掘り続けているという数人のお年寄りの案内で、さつきの中に入る。未公開の洞窟は竜ヶ岩洞よりもずっと小さいが、ハシゴ、クワ、土を運ぶ道具がそのままあり生々しく新鮮だった。と、その時ピーピーという音がした。洞内に住んでいる沢山のこうもりの声かと思った。が、外に出ると、入口でお年寄りの一人が何かを吹いていた。「ムクロジの笛」！大発見。

25年間草笛を研究し続けている私にとって、まさに初めて聞く、ピロピロピロと不思議な音だった。周囲を見回すと、ムクロジの木が数本生えている。この地方ではたいへん珍しく、私も実物を見るのは初めてだった。

ホテルに戻り、参加者に話したら皆さん

とても興味を持ってくれた。各班別の発表の中でも、ムクロジ笛で街起こしを！と提案させていただいた。会議終了後実行委員長でメダカの生徒でもある夏日厚司さんに早速話しを持ちかけ、12月16日地元の平山小学校二年生十八人が生活科の授業で祥月洞に出かけ、ムクロジ笛を作って遊ぶ事となった。この事は地元紙でも大きく報道され話題となった。今後秋にはムクロジツアーなども面白いのではと夏目さん。エイ、ヤアーと時には飛び越す事も必要か。  
(加茂光廣生徒)

## ■幻の寺「円通山小馬寺」を訪ねて

愛知県稲武町が隣接する旭町は西三河、三遠南信圏を僅かに外れる標高850余米の生駒山中に、朽ち果てんばかりの古寺が由緒ありげに潜んでいると耳寄りな情報を寄せてくれたのは平本尚久さん。三遠界限の古代文化に憑かれて調べ歩くうちにひよこり巡り合った拾い物がそれ、麓のむら田津原が仰ぐ霊峰駒山の頂きに、修験の祖役小角の創建を伝えるその寺は、祠どころか本堂、講堂、山門を連ねるまさかの威容を目の前に思わず我が目を疑ったという。

平本さんの案内で榊原さん夫妻と連れ立つて幻の寺探訪に赴いたのは1月18日、稲武町小田木から旭町田津原を経て牛地の山中を走る約30〜40分、更に歩いて約10分、冬枯れの木の間隠れにせららしき影を捉えて思わず息を呑んだ。入り母屋造りの本堂は向拝付きの堂々とした建物、横並びの講堂も際どしりと、更に石段と坂道を下った先に、杉の老樹に寄り添うように構えた山門もまた、室町期の建築様式を色濃く止め、一見して往年の盛んを偲ばせるに十分な威容を保っていた。

尹良親王滞在を言い伝えるこの寺は、南朝宮方を支えた足助荘にあつて、川手・牛地城主の庇護の元に栄えた南朝道遺産の一つに数えられよう。近世では三州街道と矢作川沿いの二つの中馬本街道に挟まれる位置にあつて、旅路の安全を祈願する参詣寺として繁盛を極めたのは、駒寺が「小馬寺」に改名されたことでも知れる。しかしそれほど寺がなぜ寂れたのか、檀家を持たない寺の宿命、いや明治年間の神仏分離令からではと見方は様々でも、一度目にしたら、このまま埋もれさせるにはいかにも忍びない思いがつのるばかり。  
(松田不秋生徒)

## ■達ちゃんの大阪だより

「関西」と聞くと皆さんはどんなイメージを描くでしょうか。吉本に代表される「お笑い」やくだいおれの町を想像する人もあるでしょう。映画の「ミナミの帝王」や「ナニワ金融道」などで怖いイメージもあることでしょうか。どこか静岡県人と異質のものをもち、違う世界であると思う人も少なくないと思います。私も大阪に来る前はそんなイメージが強く、過去に出会った、声がかく独特な関西弁ですげすげともの申す関西人を考えていました。とはいえ大阪暮らしは始まってしまったわけで、2年間一人で生活していくかなくては行かない。関西の人間は、関東の人間が嫌いらしい、関西弁を使えないで相手をしてもらえないなどとそんな話がよぎり、何日かが過ぎ去りました。赴任後、事務所の人以外とは接触がなく、この時ほど人と話したいと思ったことはありませんでした。慣れない関西弁を使い話しても「関東の人やね。」と言われ、相手にしてもらえない。事務所と家の往復ばかり、長い日が続きます。ある時、諦めに似た気持ちで遠州弁丸出しで話し始めるとすんなりと会話に

入っつけける。ほっとした気持ちで、その時からできるだけのままに話をし、それ以来大阪の友人ができ、関西の生活を楽しむことができました。私が思うには、関西の人は、自分の言葉「関西弁」を大事にしているのだと思います。東京にも生活したことのある自分は、過去に遠州弁の言葉尻をよくとられたことがあります。関西では方言だと書くとやかく言われることはありません。もともと遠州弁には広い意味で関西弁であることもあり(走ったあとに「えらい」といったり、寒いことを「さぶい」といなど)。何となく受け入れられたのかもしれない。しかし、日が経つにつれ、大阪の町が庶民の町でなくて温かい町なんだということがわかるようになってきました。道に男の人が酔っつぷれていると通りすがりの若い女性が大丈夫と声をかけていたり、私が店に忘れ物をしたときも大事に保管していたり、また、今では毎月何日か友人グループの所に出かけていったり、友人の紹介でいろんな人に出会って行きますが、いつでも温かく迎えてくれます。大阪の町は商人の町、庶民の町として育つてきています。日本全国や外国からいろんなものを受け入れてきている町です。だからこそ交流や信用そして言葉を大事にしているのだと思います。誰もが望んで入っつけば受け入れてくれるそんな町であると思っつけます。

皆さんもぜひ大阪のイメージを変えてみてください。  
(村松達雄生徒)



● 遠州に春の訪れを告げる  
遠州横須賀 三熊野神社大祭

4月7日(金)8日(土)9日(日)  
桜吹雪を合図に、また遠州横須賀に祭りの季節がやって来ます。

江戸天下祭(神田山王両祭)の流れを汲む、十三台の柵里(ねり)が狭い城下の町並へとくり出し、三社祭礼囃子の名調子にのってねり歩きます。大祭の3日間、古之の町遠州横須賀は300年の時を溯り、江戸天下祭を再現するのです。

また、この大祭の中心となる三熊野神社は、文武天皇の御勅願により、大宝元年(701)の創建以来、ちよど1300年、拜殿の立て替えも完了し、今年の大祭は記念すべき盛大な祭りになります。

「遠州の祭りは横須賀で始まり、森で終る」  
「よい祭りシーズン開幕! 皆さんぜひお越し下さい。」  
(遠州横須賀 鈴木武史)

### ● すみれに魅せられて

白井記念館に入り白井先生が愛用されていた、ピアノや机、数々の遺品に触れながらテープのボタンを押すと、すみれの花咲く頃の歌が流れて来ます。幼い頃、田んぼのあぜ道で見たすみれを思い浮かべて詩わたと聞きました。歌を聞いてみると、すみれを育てていることにひとりよがりの感慨を覚え、白井先生:すみれそして私、結ばれていたよな思いがしてしまうのです。花好きな私を、すみれと出会いさせて下さったことに喜びを感じております。

春種子を蒔いて二年大切に育て、次の年に咲いてくれるすみれ、あのすみれを見たら紫も花も誰も好きになつてしまつたでしょう。すみれが好きになり時々東京の日本すみれ研究会に出かけ、種子を譲って頂いてやつと五〇種類のすみれを集めました。  
かれんで可愛いすみれ、みなさんにも見て頂きたい。3月の下旬(26日)〜4月上旬(9日)

にかけて自宅の軒先ですみれを並べてみたいと思っつけます。すみれを並べるときお手伝いして頂ける方がありましたら感激です。すみれを見て頂けるだけでも感激。  
(尾上美智子)

### ● 修善寺サロンの来客

寒さ厳しい時に湯けむり包む伊豆修善寺温泉で「修善寺サロン」が開催されることになりました。ゲストは、湯布院温泉 中谷健太郎氏、溝口薫平氏。そして長湯温泉 首藤勝次氏です。「お三方がそれぞれの地域で何をやってたかという話だけに留めずその行動に駆り立てるのはなんなのか、芯に流れているものは何なのか、そして、それぞれの生き様に触れたい。そんなお話をうまく引き出せたらと思っつけしております。」  
(修善寺のホストの役談)

### ● 開催日 平成12年

2月26日(土)〜27日(日)

### ● 開催地 静岡県修善寺町 修善寺本堂

### ● お問い合わせ 申し込み先

〒410-2416

静岡県田方郡修善寺町修善寺838-1

修善寺町総合会館新世紀創造祭推進室内

TEL:0558-74-0303

FAX:0558-74-0313

Email: event@shuzenji.or.jp

申し込み締め切り 2月20日

(溝口久) 電話053-421-4573

FAX053-421-4526

## メダカ春秋

### ◆ 取材活動で得た地域への思い

結婚、出産、育児に、二十代、三十代のエネルギーをつぎ込み子供たちも人だちした。いよいよ、女として如何に生きるかが問われる時がきた。十数年前のことである。

「この道より我を生かす道なし、この道を行くと、そこまで真剣に考えたわけではないが、女としてひとつの節目の時をむかえ、「飛んでみようか」とジャンプして入った世界が、地方紙「庵原新聞」の編集「の」つきの女が一人立ちする新たな人生の始まりだった。ミニコミ紙の編集など全く縁の無い世界だったが、「この仕事なら、生きているという実感を得ることが出来る」と考えた。主婦からの女性記者の誕生である。当時、地方の我が地域ではまだ、女性の記者は珍しい存在だった。「どんな仕事をするかな?」「ひとつ、拝見しようではないか」そんな空気が感じられた。特に政治の世界は男社会で、女性記者に対する反応は複雑なものがあった。「舐められてなるものか」と気負つてみたり、弱者の立場にある人が頑張っているのを涙しながら取材したり、日々の感動は大変なものだった。駆け出しの主婦記者が、失敗を重ねながら取材活動をしているうちにすつかり、はまってしまう、いつの間にか地域の人々とのネットワークも広がった。今、住民参加による町づくりがいわれる時代になった。取材活動で得た地域への思いと、働きかけのノウハウを住民活動のなかで役立てていきたいと思っつけている。

行政はマスコミに対し、ガードが硬い。しかしながら、政治も、地域づくりも人のなせる技。人と、人との信頼関係の構築で住民と行政が一人三脚し、マスコミが応援する。地方紙の記者として、そんな関わり方で地域づくりに取り組めたらと思っつけている。  
(柿木恵美子)

# トピックス

☆1月24日の日曜日、静岡市のグランシップ会議ホールで「グリーンツーリズム推進シンポジウム」が開かれた。どんなメダカがいるかと2階席からのぞいて見たら、いたいた一番前に溝口久メダカと伊藤茂男メダカ、その少し後ろに吉林宏メダカ。その後ろには中川泰メダカ。2階の向こう側をみると、榎原淑友メダカと佐原剛メダカ。パーティーでは、今村純子メダカと北島享メダカ。帰り際には鈴木芳雄メダカとバツタリメダカたちが他の魚たちと一緒に群れている。

☆1月30日、引佐町渋川では、21世紀に残したい我が家の料理「ごっそさんフェスタ」が鈴木計芳メダカ実行委員長のもとに開かれた。各家庭から出品された得意料理を審査して「ごっそさん」。加茂光廣メダカも、武井紀夫メダカも「ごっそさん」。

☆細江町の上嶋裕志メダカは県公報番組で姫街道のご案内でTV出演。いにしへの街作りで、細江町の案内板を切り絵でつくる。2月の何日だったか、放送日も聞いたが、我が家は、BS(NHK)しか映らず、欠落してしまった。ごめん。

☆三遠南信、ひとネットワーク「ゆめまる」が結成されて2月11日、12日の2日間、にわたって、夢を大いに語り合おうと「2000年 ゆめまる」と語り合おうと「と銘打って、引佐町東久留女木観音山の県立観音山少年自然の家で開催される。三遠南信に在住し、各地で活動している人たちが集まる。

浜松市の企画課から、行政では、毎年浜松市、飯田市、豊橋市の3市持ち回りでサミットを7回開催している。それなりの実績を積んできたが、住民間の交流は

まだまだ。民間レベルでの交流をやってみないかと相談が来て、三遠信山岳都市研究会のメンバーが中心になって、多くの人に呼びかけて、今回の会となった。

「リンデンバウムを三遠南信の発信基地としよう」とついでにせられて、ワイワイガヤガヤしている。メダカやナマスやウナギやダボハゼや、いろいろな魚が寄り合っているところ。「とにかくやってみようや」。「これからどうやって群れ合っていくか分からない。そんな東ね役は、本島慎一郎メダカ。(バラメダカ)

## ◆事務局だより

2000年。1月のある寒い日に館山寺に新しくオープンした「オルゴールミュージアム」に行った。「おつ、すごい！」。ロープウェイに揺られながら見下ろす館山寺温泉街とパノラマのように広がる浜名湖。遠く駿河湾と遠州浜。南アルプスの山々。湖西連山。車で走っている時には見えなかった風景。大草山に登って知ったこの感動。オルゴールミュージアムも新しい感性で、18世紀、19世紀の世界へと導いてくれる。こんな近くにこんないい所があるとは…。教えられました。生活者として足元を見つめる眼と、時には上の方に登って眺める眼と、知らない町に出かけてブラブラする眼も必要なんだね。考えるまでもなく視点を変えればいろいろなものが見えてくる。

「21世紀に何を残し、何を伝えていくことができるか」。私たちは、特別に感情を持つ、持たない、にかかわらず21世紀に行くんです。ムリに背伸びする必要はないが、視点を改めて自分を見つめることもあっていいじゃないかと思う。大須賀町の街並みを車で走ってみれば、

道が狭くて危なくてしようがない。でも車を置いて歩いてみると、鈴木武史生徒がこだわる理由が分かる。蒲原町の片瀬信江、服部竜生徒が古い街道にこだわる思いも見えてくる。磐田市見付でも、細江町の姫街道でも、それぞれの町に住む生徒の思いが感じられるものだ。長野県天龍村の関京子、浪合村の近藤庸平、南信濃村の玉置洋一生徒らの山間地で生活する生活者の生きざまも分かる。「めだかの学校」も、「あそこへ行けば面白い人に会える、何か得るものがある。でもこの頃は面白くないな」という声も聞かれるようになった。でもここで視点を改めてみればどうだろう。求めるだけでなく、自分を差し出してみたら、ひとりひとりがお客さまではなく、おもてなし係りにならうだろうか。きつと見えなかったものが見えてくる。年会費1000円、1回30000円の給食費、お金にはかえられない、何かが見えてくる。生徒ひとりひとりにも生活者としての顔がある。ちよつと角度を変えてみたら、きつと違った顔も見えてくる。

「2000年。21世紀へのメッセージ」、そんな視点で見ると、100文字の中にいろんな顔が見えてくる。これこそが「めだかの学校」の真骨頂なのです。「21世紀へのメッセージ」ありがとう。特集ページが組めました。ひとりでも多くの生徒のメッセージを載せたいと、だいたい締切りを過ぎたものも取り込んだため、「新春27号」が遅れてしまいました。お許しを。

追伸：まだまだ寒い日がつづきます。くれぐれもお身体にはご留意下さい。人は言う、「だいたい平均年齢が上がりました」ので…。(事務局編集・榎原幸雄)

## ■七期の入校手続きを!!

七期は11年9月1日から12年8月31日までです。新入生は手続きが必要です。

同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて提出してください。在校生(継続生)で、手続きがなされてない方は自動退学となりました。

入校金納入をもって「めだかの学校生」となりますので、FAXでの申込みは受けません。特に今回は、申込み書に沿って名簿を作成し直しています。

入金されていても申込書の未提出の生徒は名簿からはずれ自動退学となります。再入校は認められていますが、再入学手続きが必要です。

## ■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、5月1日ですので、4月20日までに事務局又はエヌビー静岡企画室照井泰子さんあて、FAXしてください。

FAX

053-4844135まで。

## めだかの学校事務局

〒431-2531

静岡県引佐郡引佐町東久留女木

472-1111

「リンデンバウム」内 榎原幸雄

TEL・FAX

053-5450381

※「つみくさ」は学舎のみです。

すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」をお願いいたします。

(第27号付とめ)

春野町・尾上美智子

昔、食べる物を粗末にすると罰があたると言われて叱られた。今二度罰と言うことを考えてみたい。罰と言うことは、道徳であり、心裕かに生きる武器なのです。人、自然、環境を罰と言う言葉で、考えてみたいと思う。

磐田市・今村純子

東の賢い人から学び西の楽しい人と遊び、南の暖かな人からやさしをもらい、北の人から喜びしさを聞いてアイデアをいかしインテリでウィットに富んだエレガンスでオリジナリティな生き方をしてみたい。

浜松市・佐野文子

いつか達成感を味わえる。そんな人になりたい。できることなら自己満足に終わらずに。あなたの笑顔が見たいから、日々ささやかな努力をしてゆきたい。

掛川市・水野忠義

二〇〇〇年は三重丸だ三重苦の一九九九年よりサンキュウとサヨナラして、新世紀(あした)に向かって、夢は大きく前進したい。新品種のめだかもいるが建学の精神にかえり皆さんで楽しく大海にでて「おゆうぎ」をしたい。

水窪町・耳塚信博

自然の内より湧き出るエネルギー、山里には埋もれた泉がある。探求の道程は遙か先か。多くの友と捜索発見し次世紀への礎となる、「夢の架け橋」構築完成のため、創

作者を通じその志を伝えます。

磐田市原 邦司

自分だけ、日本だけがいいということはない。世界はひとつ。次世代に対する共通の責務を思うとき、平和な世界の建設に邁進したい。人間の格を上げることこそ解決の糸口だ。人が好き。夢が好き。自然が好き。

細江町・久米久乃利

我が息子、利弥(一歳)。ただ酒飲むな、卑屈になる。振る舞い酒するな、身上潰す。若い時は、目上から奢ってもらへ。年とつたら若者へご馳走しろ。でも、限度を超えてはいけない。自分が授かった物は必ずかえせ。

磐田市・西郷 陽

世紀末の灰色のBGMに操られて踊っている舞台から飛び出して、広い草原で思いっきり自分を表現してみたい。人と人とのコンドーションだけでなく、木や草や小鳥たちとも同じ目線でコミュニケーションしてみたい。

雄踏町・山下愛子

文明が発達し、私共50代の人間には着いていけないって感じ。若者が希望がもてる世の中になりたいと思います。

信州大鹿村・古島寛次

心の渋滞を避け、安らぎを求めて山国に来る人々のために、自然を守り、故郷の味、田舎の味と人情深い心を後世の贈りものとして。自慢出来る雄大な自然と心のある大鹿です。

信州天竜村・関 京子

田舎の自然環境歴史や文化を守りたいのです。人手不足で山も川も泣いています。不

便かも知れませんが都会では失われてしまった何かがあります。今一度考えてみませんか。田舎には大切な宝物のある事を共有として。

湖西市・寺田悦子

環境汚染で豊かな自然が次々と再生不能な程破壊されていくと言う現状も耐え難いですが、それ以上に、環境ホルモンによって人類が、子孫繁栄がならず、滅亡に向かっているのではないかと危惧しております。

湖西市・佐原 剛

21世紀は日本が普通の国になる世紀。20世紀の地位も名誉も全て捨てて、皆がそれぞれに生きる時代。自然とともに楽しく生きて行きましょう。

藤枝市・横山浩史

二〇〇〇年、辰年の年男、40周年目(虚)という節目にあたり目標、桐製品(〇〇〇)点を製造し、桐文化を広めたい。

浜松市・溝口 久

知人から年賀状に「全てをばっばり出して突然沖繩の知人の所どころがりでこんで」と書かれていた。私の賀状にも「遊離していく自分を止められない」と書いた。ちなみに我ら生まれた年月日が同じである。

浜松市・澤美登良男

原色押花講座の受講生3人がぐんぐん実力をつけ師範免許が取れそう、楽しみですが、望に応じて各地で講座が開けます。古文書講座の受講生7人がインスタラクターの資格取得、これまた師を越えた実力で嬉しいですね。

浜松市・杉村顕祐

年末年始もなく毎日働いてます休みな

し私の奥浜名湖レジャーランド自然がいつばい子供達学校幼稚園が休みの時いつ来ても自然を相手に楽しく遊べる所を残して子供達が大勢来てくれる事を夢見ており21世紀へ残したい。

磐田市・小野泰弘

16世紀からの五百年間の戦死者数を調べた統計では、実にその3分の2が20世紀に集中している。20世紀は戦争と暴力の世紀であった。来るべき21世紀は、平和と人権尊重の世紀となるよう願わずにはられない。

浜松市・加茂光廣

空、山、川、緑、生き物たち、皆が生命を讃歌し、感謝する地球でありたい。また、そのために自分自身の持っている力を発揮したい。草笛を吹き続けてゆく事がこの思いを実現する最良の手段と信じ、今後励みたい。

浜松市・古橋利雄

人並みの生活をする為には色々とお費が嵩み、それを補う為に、追われるように働いている。幸いにも健康で来れたが、何かの事情で働けなくなったらと考えるとソツとする。21世紀は絶対にくつりを持って楽しんで働く。

浜松市・大谷洋介

今どきの若い者は?と言う年寄りにならないように、なりたい。自分の若い時も同じようであったような気がする。人生2度ほどできないことを認識すれば、何も言うことなし!ケセラセラ。か。

浜松市・太田京子

心ときめかせて21世紀を歩き出したい。生きている感動を毎日感じながら、多くの友人と語り行動し創作する中で、子供達に

今までは特急電車に乗って走って生きてきたようです。21世紀には各駅停車に乗り換えて少欲知足の心で、窓の景色を眺めたり、人々との語らいを楽しみながら小さな目標に向かって歩いていきたいものですね。

浜松市・久米かよ子

2000年！なんとい響きだろ。辰年であり、還暦である。大きなスタートラインに立った気持ちだ。人形製作に携わって10年目。遠鉄ロゼでの作品展又恒例の夏山登山に赤い服装での登頂計画など我、健康に感謝します。

浜北市・松本泰栄

カゼをひいてつらくつらくてこのてがみをかいています。いままでじぶんはてつじんだとおもっていたがじつさいはそうではなくただのちゆうねんだつた。ほんとうはべつこのとをかくつもりだったが、ああーのうさのうがいたい。

舞阪町・服部守孝

都という言葉にはなにか憧れを感じます。私達の暮らす地球が〇〇の都となれば訪れる人が多くなることでしょう。2000年を迎えた今、次世代に残せる〇〇を探し出しましょう。

天竜市・吉林 宏

「夢・日々」めだかの学校」の特別教室を開校願ひ星空コンサートに参加して見たい。想い「21世紀は「少子化対策」がいらないように「二夫妻制」を採用してほしい。経済力と精力的な方はー？愛国の士

家族や会社の社員に将来残してあげたいと思うことは、日本人として先輩から引き継がれて来た良い道德教育や私達が生かされている自然からの恵みに感謝してお返しをすることです。

浜松市・牧野怜子

2000年人と人との関わり合いを大切にしたい。愉快をもらったり、力づけられたり、又差しあげたりして：昨日会った人、今日会う人、明日会う人、が前進する力をくれるから、人が活力源になってくれるから。

豊岡村・伊藤英雄

「登校しなさい」「書きなさい」不愉快な命令なのに喜んでるメダカの魅力。逢いたい人話したい人、聴きたい人、はたまた未知なる出会い。会話の出来る嬉しさ、心使いのネットワーク。待たれる人になりたいなア。

豊田市・堀田正子

春、芽吹き、咲く。夏、繁り、秋、実る。当たり前のことが、当たり前のように循環していくことの大切さに気付く、謙虚な人間でありたい。

三ヶ日町・階堂隆夫

役員(用務員)なのに遅刻してしまいすみません。次回を楽しみにしております。前回の原稿もテーマを間違えました。連続ですみませんでした。よろしくお願ひします。

細江町・永田 茂

本年1月をもつて丁度50才になりました。何かに追われるように過した今までも運う、少し肩の力を抜いた自然体で再出発したいと思ひます。仕事の方も自然、健康志向で

21世紀にやさしい気持ちになれるように、すべてにやさしく作って行きたい。物をもつてほしいにしたい、いい物を作り長持ちする事をゆつくりおしえたいと思ひている。物を大切に、子におしえたいのだけ。

浜岡町・中嶋 豊

今年で44才になる。21世紀の3分の1くらいは生きてるだろうが、今年中に人生の目標を定め、残りの人生をこたわりを持って生きて行きたいと思う。自分の思想を成しとげた何かが残れば最高ですね。

名古屋・山根圭一

20世紀最終年の今からの10年間を私は、高年青春デイケドと呼ぶ。課題は「毎日常動いつも感謝である。どうやって動いて見(観)て聞く(聴)いて嗅いで、触つて。誰(何)から：自然から人様から。

浜松市・徳増康弘

私達は今の高齢化社会に向かつている現状をかんがみ介護の問題がクローズアップされています。そこで老老介護になりつつある問題を皆んなでこの素晴らしめだかの仲間達と共に考えアイデアを出して世の中へ役立つ提案をする。

細江町・松田不秋

長野五輪が置き去つたどきどきの中で、地域遺産を守つて生きてきた別所温泉と小布施町が微笑んだ。歴史と文化、価値の定まったものに地域を託してこそ確実に生き残れることの実証と見るべきだ。

青い海と白い雲。道端の草や石ころ。風にそよぐ麦畑。夕焼け空と赤とんぼ。雨蛙の鳴き声。外で子供が遊ぶ声。ねずみの嫁入り、うさぎの餅つき。花咲か爺さん、桃太郎。てるてるぼうず、てるてるぼうず明日天気になあれ。

豊岡村・鈴木正士

私は、自分が生きた足跡を残したい。それは我が家のお花畑、2500㎡の畑をツツジの花でうずめ尽くしたい。まず、我が畑を美しく、次に、我が地球を、そして、我が村を美しく、ただ実践あるのみ。

引佐町・大谷代

毎日感動。毎日感激。いろいろな人との出会いが、人の心を豊かにしてくれる。勇気を出して一歩ふみ出せば、自分の知らない世界が待っている。それを教えてくれたのは旅で出会った人々たち。今度は私が教えてあげよう。

引佐町・伊藤八右

古来から伝わる面を求めて毎年旅に出ます。昨年は円波篠山能楽資料館でした。ここはもう三回も訪れているが何とでも行きたい処である。今年も面を求めどこかへ旅する予定です。面のある場所皆さん教えて下さいね。

引佐町・前嶋康一

ミレニアムを迎えたのですが私自身は昨年何ら変化していません。思えば子供の頃からだらしがないことも全然変わっていません。世の中の流れは速いのですが、私はとりあえず自分自身を何とかすることを優先します。

引佐町・石野省三

仲間と共に迎えた2000年の「初日」、夜明け前の90年代は暗いことが多かったがミレニアムの夜明けは明るく穏やかだった。自らに「たまたま」「自分と未来は変えられない」、自らの美意識にいかにも忠実に生きるか。

天竜市・市川美鈴

自分らしさが十分、發揮できる場面をたくさん作り、仲間と楽しく、きれいで健康な毎日を過ごしたいと思う。

引佐町・柴田宏裕

戦後50年高度成長の中を上を向いてつづいてきた人間共がふと立ち止まったり、つづ道をそれたりするじつくりした歩みを始める世紀の到来を期待しています。出世や成功とは無縁であっても、共に生きる喜びを。

細江町・山名れい子

環境汚染：人間関係のゆがみ等不安材料の多い21世紀。私のできることは小さいけど生きたことを後悔しないよう何ができるか見つけ実行していく。そして子供たちに生まれてきてよかったと言わせない。

浜松市・鈴木真弓

一生懸命をやめよう！と思つてここ数年が過ぎた。けど足元を少し忘れていたかなと反省。人とぶつかるのは他人より自信の心のしなやかさの無さ。固定観念の強さ、もう一度、まっさらな気持ちになつて両手を広げて…。

磐田市・長尾幸江

2000年になつたらとても想像も出来ない位に、世の中が変わつていっているのでは…と未来の夢をみていましたが…今は、ほんの入口スタート、これから100年、世界が1つ

になり、夢のおとぎの国になつたらいいのね。

吉田町・芝 晴美

食物は安全でおいしいいい空気では澄み地球は豊か。男も女も、ハンディがあつてもなくても、年をとつてもとらなくても、都会でも田舎でも、国と国でも、自由に意見が言えて、コミュニケーションがはかれますように。

福田町・川島安一

「有茶」の時代。筋道のない様を無茶、苦いだけの茶を苦茶と言う。物質文明に酔いしれた滅茶苦茶な二十世紀は、精神文化と礼節を忘れてきた。時代は人と人の温かな関わりを求めている。「有茶こそ天命である」。

袋井市・松本芳廣

地球上のあらゆる生き物の中で人間だけが地球を汚している。こんなことがいつまでも続く訳がない。本物とは、本当の生き方とは、地球を汚さないことである。(宮崎県綾町郷田前町長語録より)

磐田市・斉藤 昭

机の目の前にプランタに生けられた真っ赤なゼラニウムの花がある。さて水をどうやって根から吸い上げて花まで持つて行くのだろう。植物が水を吸うメカニズムである顕微鏡とデジタルカメラを使って解明したい私の夢である。

引佐町・大谷香代子

元旦に初日の出を拝みながらこんなことをお願いしました。自分磨きをしながら多くの人達との交流をし生涯教育としてまず一步のあゆみからレンガを積み重ねてじっくり考え、実行し来る21世紀にゆつくりと歩を進めたい。

引佐町・吉田俊夫

街おこしの知識高揚と人脈構築として参加している「めだかの学校」。年月だけが経過している。地域の人達にも声かけをして、カメのごとく地道に粘り強く活動して行きたい。「初心を忘れず、人の意見を聞きつつコツコツ」

引佐町・金原恵子

オフィスには観葉植物トイレには造花。そして少女の部屋にはサボテンが置かれるようになってしまった現代。つぼみがふくらんで、花が咲き、そして枯れていく様を見せてくれる季節の生きた花木を飾れる家庭を増やしたい。

森町・天野智加志

社会の変化に伴い、ゆつたりとした時間が失われている。人間の根源的な願いや思いを形で表現した、宗教儀礼を含めた行事や慣習を、家庭・地域の生活の中に取り戻したり再構築していきたい。人々の精神的拠り所として。

引佐町・土手耕平

将来の引佐町は夢が一杯、第二東名三遠南信自動車道・井伊谷土地区画整理事業・IC周辺開発・国道257号のバイパス。自然を守る所、開発する所を決め町士林野率72%の内2%程度の開発を目指し自然との共生を図る。

引佐町・牧野久子

ゼロが三つ並んだ年始め。人生のリスタートを心新たに生きていて良かったと思える人生を送って生きたい。シンプルな暮らしの中で、心豊かに、無理をせず、自然体で。自己の目標に向かつて、足跡を残して歩いて行こう。

浜松市・野村徳子

インターネットならぬ人間ネットワークを意識し歩む先々での触れ合いに自分自身の成長を夢見る。プログラムのこの一年面倒がらず人との絆を求め初めの一歩です！そしてあたりまえを素直に声に出してあげたいと思う。

引佐町・伊藤茂男

不在が私の我が家の電話へ向かいのおぼさんが出てくれる。ピタリするのは相手方「今留守なんで帰ったら伝えておきますよ」昔からの向こう三軒両隣り、こんなあなたがいお付き合いが世界にひろがる21世紀にしたい。

浜松市・柴崎達矢

事件、事故、病氣：毎日、何人も人が死んでいく。彼らには、どんな人生があつたのか。何を想つて死んでいったのか。そういう、忘れがちな貴重な話を、(仕事は別にしても)後世に語り継いでいきたい。

藤枝市・小嶋良之

21世紀は、地球の世紀でありたい。20世紀、私たちは一心不乱に「人間の世紀」を目指してきた。その結果どうなったのか、それは私たち自身が一番知っている。21世紀は、地球という生命を活かす世紀でありたい。

引佐町・鈴木計芳

20世紀の後半を生きてきた。自由と平等と平和と繁栄の中で…。21世紀はどんな時代になるの？こころの豊かさを大切にしたい。そんな希望をもつて新世紀を迎えたい。私をここまで育ててくれた20世紀に感謝しつつ。

パトナツチのできる歴史を築いていきたい。  
自分の位置を羅針盤で常に確かめながら…。

#### 掛川市・落合啓一

想うこと「もったない」「しまつしろ」は母の口癖である。時代が違うからで、落まっていたが最近どうもおかしい？捨ててきた、日本人の心！壊して来た生活環境！今、出来ることから改めようと思います。

#### 東栄町・森下幸子

庭先は四季の花で彩り、玄関は何時もある人に明け放ち、少し苦いお茶に甘いものを添え、さあ！存分来世紀への夢を語ろうよ。日が落ちたら、熱燗に手料理など添え培った友情を深め、更に楽しい老後を送りたいね。

#### 浜松市・伊達公一

私達の住んでいる地球が、化学の発達と共に環境汚染が進み、住みにくい状況になりつつあります。自然を取り戻す為山の緑を絶やさないう様毎年植樹の行事に参加しています。緑を増やせば川もキレイになりメダカもふえるでしょう。

#### 焼津市・平山 豊

地球環境を守るためにインディアの心、世界の平和は禪の心、心ゆたかに無財の七施、この心を信じて生きてます。私欲、物欲は悪の根源、メダカは清らかな水の中しか生きられません。2000年、メダカの学校、清貧宣言！

#### 清水市・花井 孝

「ニッポンの常識は世界の非常識か」それは間違いだ。我が国には美しい伝統もある。普遍的価値だと思ふ、もう一度日本の文化に自信と誇りを持ち、日本の常識をいつの日

か世界のスタンダードにしたいものだ。

#### 天竜市・本島慎郎

2000年という節目の年を迎え、今、ゆめめる「がはばたこう」としている。21世紀が明るいのとなるように、ゆめめる「3つのころ、ひとが好き、しぜんが好き、ゆめが好きを育みながら、いとのおしみながら。

#### 大須賀町・鈴木武史

本当に何事も便利な世の中になりました。でもこれ以上の発展はいいません。人が人らしく生きてゆく為には、もう少し不便な世の中の方がいいのかも？と言いつつ携帯電話を話せない私…いつまでも今のままで次世代へ！

#### 龍神村・真砂典明

紀州木の国龍神に暮らして40年。森を育み木と関わって、そのすばらしさ、大切にに触れる事が出来ました。その想いを21世紀を担う子供達に伝えようと、83年以来、森林・木工教室を続けています。出前教室もいたします。

#### 蒲原町・片瀬信江

自分の住んでいるまちが好き。ここに住んでるひとと好き。ひとがまちをつくり、まちがひとをつくる。これからも、ひととまちのいい関係に、私なりにこだわっていききたい。

#### 浜松市・宮近 勝

私は館山寺と浜松西インターでドライブインをやっている者です。全国からいろいろな人が数多く来ます。心に残る土産をと考えながら頑張ってます。感動を与える店作り頑張ります。

#### 浜松市・田中秀子

人との縁、出会いに感謝し、大切にしてい

きたいと思う。夢は「西アジアの小さな村、麦畑、花の香り、水河のかけらが流れてくる川、暖かく素朴な笑顔―穏やかでゆつたりした時間の流れに身をまかせたい。

#### 引佐町・榊原幸雄

2000年辰年60歳。昇菴だ！と力んでみたが、知力体力は横歩き竜がピツクリ。足元みつめてゆつくり歩こう、21世紀へ。忘れ物も多いだろうけど、のんびり行けば気がつくこともある。気がついたら捨てていけばいい。

#### 豊田町・中川 泰

日本の社会は、お題目を唱えていれば誰かがやってくれる考えが支配する感がある。自己責任、地味な活動の継続する敢闘精神こそが私にとつての「千年へのメッセージ」であり、自らの羅針盤と考えてます。

#### 富士用町・袖本恵美子

21世紀は「心と環境の世紀」としたい。四季折々の花々、地域を流れる川のせせらぎの再現。地域を愛する人と人のネットワークづくり、思いやりの心、そんなものに「豊かさ」を感じられる血の通った世紀にしましょう。

#### 川根町・北島 享

義務教育の制度が全面的に見直される。学校へ集まって授業を受ける集中方式はなくなり、週一回学校へ行き後は地域そのものがキャンパスとなる。教える人は、地域のお年寄りや主婦、場合によっては小学生だったりする。

#### 遠州森町・田邊 哲

好きな事、趣味をもっと追求めし、仕事よりも生き甲斐を感じながら、仕事をしているよりもよい生活が出来る匠の世界に

生きる事が課題です。貴方の匠は何ですか？☆サトボーの他に、フーグ・石松も使います。

#### 浜松市・鈴木 旭

幼き頃、水遊びや魚釣りに、時を忘れた故郷の小川は、メダカや水草が姿を消し、往時の面影を今に留めず。「肴の棲まぬ所に人住まぬ」環境危機は変革の好機、環境再生と保全、自然との共生。創造主に逆らうことなかれ。

#### 浪合村・近藤庸平

アメリカインディアンは、重要な事を決めるとき、今の選択が7代先の子孫にとつて良いことか、悪いことかを基準にしたそうです。人間が生きものとして生きられる世紀であつてほしいものです。

#### 袋井市・湯浅明美

せちがらい世の中、ストレス社会に心を癒す自然の山や川、海、湖を一人でも多くの友達が汚す事無く守れたらと思います。私の想い流れにまかせ、人とかかわりをこれからも大切にたくさんの仲間を作り大いに語りた。

#### 豊岡村・市川祐一

私は百姓。大気と大地の接する山里のむら舞台とし幾代にも渡り大自然(宇宙)の力を借りながら「いのち」を育て続けて来た。こんな者達にも、やさしい風が吹く新世紀…それを信じて今日も夫婦で農良に出る。

#### 細江町・夏目美之

2000年というちよつとかつこい年に、大きな夢を持って生きていこう…とひそかに思う。21世紀という大きな響きの中には小さな失敗は消えてしまひそう…とどんと胸を張って歩いていけたらいいな！